



報道関係者各位

～相模原障害者施設での殺傷事件から1年あまり～

障害者の心に残った事件の爪痕

障害者の就労支援を中心にソーシャルビジネスを展開する株式会社ゼネラルパートナーズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：進藤均）は、2016年7月に神奈川県内の知的障害者福祉施設「津久井やまゆり園」で発生した大量殺人事件から1年あまりが経過する中、障害のある当事者が事件についてどのように感じていたのかを調べるため、アンケート調査を実施しました。その結果、8割以上の障害者が事件に関心を寄せており、報道を受けて苦悩していたことが明らかになりました。

調査結果

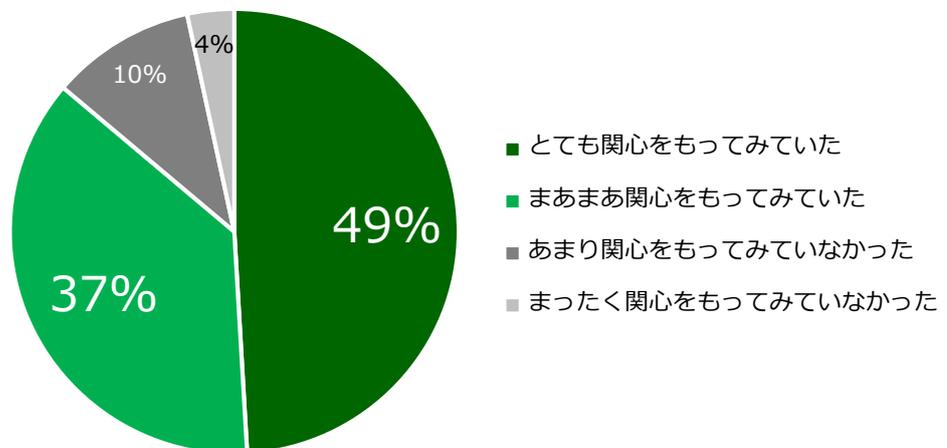
対象：障害者 326名

調査期間：2017年8月4日～2017年8月10日

調査方法：インターネット調査

事件について『関心をもって見ていた』という方が86%

あなたは相模原障害者施設での殺傷事件をどのようにみていましたか？

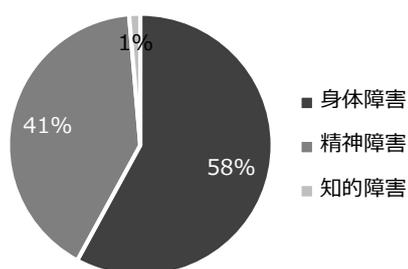


《フリーワード》

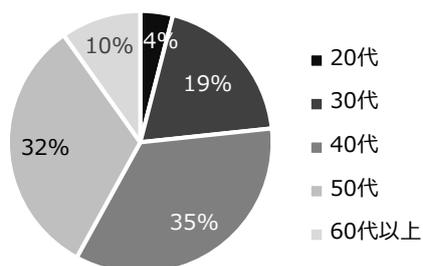
- 「障害者は必要ない」という容疑者の言葉に、匿名の**ネットユーザーの人たちが賛同していて胸が苦しく辛かった**。
婚約者や友人、支援者のように温かい目で見守ってくれる人たちが、私たちにはまだまだ少ない気がして、悲しい気持ちでいっぱいになった
(20代/女性/精神障害)
- 犯人の間違ったメッセージが垂れ流しのよう報道され、それに**感化される人が出るのが不安だった** (50代/女性/精神障害)
- 同じ障害者として許せない事件だと思いました。**もしかしたら自分が**、と思うだけでゾッとします (50代/女性/身体障害)
- 心が傷んで**鬱が再発しそう**になった (30代/男性/精神障害)
- 障害者が死んで家族も楽になったのでは、といった意見がネットで散見され、暗い気持ちになった (20代/男性/精神障害)
- 同じ人間なのに、障害があるというだけで排除しようとするなんてあってはならないこと (50代/女性/身体障害)
- 加害者のあまりにも身勝手な犯罪に**激しい憤りを覚えました**。また日本でこんな悲惨な事件が起こったことに衝撃を覚えたと同時に、社会の寛容性が無くなった結果が生んだ悲劇だと思いました (60代以上/男性/身体障害)
- 障害にも様々あるが、犯人も社会の見方も「障害者=社会の役に立たない」と一括りに扱われており、憤りを感じた (40代/女性/精神障害)
- ひどい、ひどすぎる。障害を持つ僕たちは、精一杯毎日を必死に生きている。殺すなんて最低で、ありえないと思った (20代/男性/知的障害)
- すべての障害者が不幸だとは決して思わない**。生きてる価値がない、役に立たない人間は、この宇宙には一人もいない
(50代/女性/身体障害)
- もしも犯人が同じように身体の一部が悪くなっていたなら、少しは気持ちがわかったのではないか。人間は同じ状況にならなきゃ分からない部分が沢山あると思います (50代/男性/身体障害)
- 障害者に対する偏見の縮図**だと感じた (30代/男性/身体障害)
- 障害の種類は違うが、障害を持つものとして一人の人間と扱ってもらえない社会があることを改めて実感した (50代/女性/身体障害)
- 障害への偏見から、殺人まで起こしたことに驚きました。殺人まで行かないとしても、ひどい偏見を持っている人は身近にたくさんいそうで怖くなりました (40代/女性/身体障害)
- 容疑者が「障害者なんかいなければいいんだ」と発言したのを知って、**自分のことを言われた気がした** (50代/女性/精神障害)
- 血税の恩恵を受けている私にとって、犯人の語っていたことが自分のことを言われているようでした。殺人や傷害に至らなくても、健常者の一部の方も犯人と同じような気持ちを持っているのではないかと、その考えを否定しようと色々な記事を見ました (50代/男性/身体障害)
- とても凄惨な事件でした。あってはならないことですし、思想も間違っています。しかし**多くの人は同感できるのではないかと**、勝手に考えています (60代以上/男性/精神障害)
- 事件は起こさないまでも、障害者はこの世から消えた方がよいと真剣に思っている人が実際に少なからずいることを知っているの、あってはならない事件だけれども、**起こりうる事件だった**と、半ば冷静に見ていた (40代/女性/身体障害)
- 障害を持つまで、障害者の事には関心がありませんでしたが、障害を持ったことによって、綺麗事ではすまされない部分があることを理解しました。障害者と関わったことで大変な思いをされた方たちは、どこにその思いをぶつければよいのでしょうか。命を奪う方向性にぶつけてはいけませんが、障害者と関わる人たちの心のケアをすることにも力を注ぐ必要がある気がします。一生障害を負うというのは、本人が一番つらいのですが、周りの人たちも大変な思いをしながらお世話をしていることを忘れてはいけません (50代/女性/精神障害)
- 周りに迷惑をかけていないだろうか？**治らない障害を抱えて生き続ける理由があるのか？**などと、考えることが増えた
(50代/女性/身体障害)
- 障害者施設に勤務をする方は、人並み以上に障害者に対して寛容だと思っていた。事件の犯人がずっと障害者に対して偏見を持っていたのか、それとも施設で働いたことで障害者の実態に触れ、それが自分の予想をはるかに越えていたことで障害者に対する偏見を強めていったのか…犯人が障害者に対する偏見を持つようになったきっかけは何だったのかについて関心を持って見ていた (50代/男性/身体障害)
- 犯人も統合失調症と言われており、**自分と同じ病気なので、別の意味で偏見が怖い** (40代/女性/精神障害)

<アンケート回答者の概要>

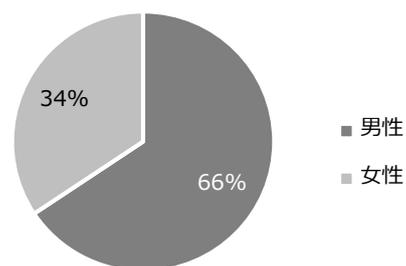
障害区分



年代



男女比



「株式会社ゼネラルパートナーズについて」

障害者専門の人材紹介会社として、2003年4月に創業。その後、「就職・転職サイト」「障害別の教育・研修事業」「就労困難な障害者による農業生産事業」など、幅広い事業を展開している。これまで就職や転職を実現した障害者の数は5,000人以上。

『誰もが自分らしくワクワクする人生』というビジョンのもと、今後は障害者に限らず、不登校、ひきこもり、LGBTなど様々な不自由を抱える方々のサポートへ、ビジネスの領域を広げていく。

会社名 : 株式会社ゼネラルパートナーズ
代表者 : 代表取締役社長 進藤均
URL : <http://www.generalpartners.co.jp/>

本社所在地 : 〒104-0031 東京都中央区京橋 2-4-12 京橋第一生命ビル 3F
業務内容 : 障害者専門の人材紹介事業、求人情報事業、教育・研修事業、
農業生産事業、調査・研究機関 など

本プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社ゼネラルパートナーズ 広報担当：田島

TEL:03-3270-5573

FAX:03-3270-6600

Mail:media-pr@generalpartners.co.jp

